

羽柴秀吉大坂築城掟書

天正11年8月28日付 前野将右衛門尉宛

天正11(1583)年、大坂を手に入れた秀吉が石垣普請を始めるにあたり、家臣の前野長康に指示した掟書。内容は、①採石場の石に誰かが印を付けていても、構わず取ってきてよい、②作業期間中は採石場に野宿しても大坂の宿所を利用してよい、③石を運び終えて帰る者や軽い石を運ぶ者は、大きな石を運ぶ者に道を譲ること、④喧嘩口論をしないこと、⑤百姓らに理不尽な要求をしないこと、となっている。

普請は本状の直後、9月1日に正式着工され、その日生駒山麓の河内路を通った公卿吉田兼見が、石切りや石運びに従事する人であふれかえっている様子を目撃している。



刀銘(三葉葵紋)

以南蛮鉄於武州江戸越前康継(高原家蔵)

徳川家康に技量をみとめられ、そのお抱え工となった康継の作品。康継は、越前で結城秀康(家康の次男)に仕えていたころには「肥後大塚下坂」と称していたが、慶長13(1608)年ごろ家康と将軍秀忠に召されて江戸で作刀、家康から名前の一字「康」と徳川家の三葉葵紋をたまわり、以後は「康継」と名乗った。本品にも三葉葵紋を彫りこんでいる。

銘文には「南蛮鉄をもって、武州江戸において」作ったと刻まれる。「南蛮鉄」とは幕府がイギリス人やオランダ人を通じて輸入した、おもにインド産の鉄のこと。康継は、この南蛮鉄を用いて多くの刀を制作した。



秋草蒔絵硯箱

九州の五島列島を本拠とした五島玄雅が秀吉から拝領した重宝として、肥前福江藩主五島家に伝来。もとは秀吉が酒の燗をするのに用いた鍋ぶたで、拝領後、硯箱に仕立て直されたという。

菊や萩、ススキなど、秋の草花を粋い筆遣いで描いている。勢いよくのびた葉の上をたくさんの露玉がころがり、飛散する。桃山時代に上流階級で愛好された高台寺蒔絵を代表する優品である。



伊予札腰取二枚胴具足

美濃今尾城主の市橋長勝が関ヶ原合戦の際に着用したと伝わる具足。兜鉢は金箔押しきんぱくおしの烏帽子形で、大きな二枚目の脇立をつけ、二の腕辺りまでの長い毛を垂らす奇抜な意匠である。全体的に見ても金箔押し、黒漆塗り、錆塗りを使い分け、変化に富んでいる。

徳川家康の会津攻めに従軍し東軍に属した長勝は、西軍の根拠地大垣城に近い福栄城(現、岐阜県安八郡)を攻略。これによって西軍が伊勢方面と大垣の間で連絡することを妨害し、東軍の勝利に貢献した。

(背景) 重要文化財 大坂夏の陣図屏風 大坂夏の陣最後の決戦の様子とともに、無名の人々の受難をも描く、謎多き戦国合戦図屏風の傑作。



大阪中之島美術館

ヤノベケンジ《シップス・キャット(ミュージズ)》

大阪を代表する現代美術作家のひとり、ヤノベケンジさんによる《シップス・キャット(ミュージズ)》。大航海時代に害獣から貨物や船を守り、船員の心を癒す友として世界中を旅した「船乗り猫」から着想を得た作品です。美術館を守り地域に福を呼ぶ巨大な猫のモニュメントとして、美術館から見て鬼門の方角(北東)ににらみをきかせます。身にまとうヘルメットやスーツは、混迷する世界の未来を見通し、困難に立ち向かう勇気を表しています。美術館という「船」の乗組員として、大阪から世界に向けて情報を発信することを見守ってくれているかのようです。

大阪中之島美術館 学芸員 大下裕司

※大阪中之島美術館 2F 芝生広場にて恒久展示

住所 〒530-0005 大阪市北区中之島4-3-1 TEL 06-6479-0550(代表) FAX 06-6479-0556
ホームページ <https://nakka-art.jp> アクセス ●京阪電車 中之島線 渡辺橋駅(2番出口)より南西へ徒歩約5分
●Osaka Metro四つ橋線 肥後橋駅(4番出口)より西へ徒歩約10分



2019-2021年、ステンレス、FRP、アクリル、LEDライト他 大阪中之島美術館蔵 ©Kenji Yanobe Photo: KENJI YANOBE Archive Project

大阪市立の博物館・美術館・動物園 **Osaka Museums** <https://ocm.osaka>

- 大阪歴史博物館
- 大阪城天守閣
- 大阪市立自然史博物館
- 大阪市立美術館
- 大阪市立東洋陶磁美術館
- 大阪市文化財協会
- 大阪市立科学館
- 天王寺動物園
- 大阪中之島美術館
- 大阪くらしの今昔館